

以前あるデパートで「あなたの誕生日の新聞を印刷します」という催しがあり、私の誕生日である昭和33年某日の新聞を印刷してもらいました。1面右上は「道德教育の義務化」、次の記事が「金門侵攻迫る」で、中共軍が1昼夜で1万6千発もの砲弾を撃ちかけたというものでした。台湾海峡は実際にドンパチやっていたのですね。いまさらやらないだろうと考えるのは平和ボケというものでしょう。そして下の方に小さな枠で「登校拒否は違法」という記事が出ていました。法相と文相が司法上の処置も検討すると答弁したというものでした。憲法上、教育・勤労・納税を日本国民の3大義務と言いますが、文字通り解釈すればそうなりますよね。

今月号の特集は「不登校」です。最近は登校拒否という言い方はほぼなくなりました。確かに「私はとにかく学校に行きたくない」とはっきり言うような子どもは、むしろ健康かもしれません。ほとんどの場合「不登校」の子どもたちは何らかの身体的・精神的不調を理由に学校に行かなくなります。したがって、われわれ小児科医の援助が必要になるわけです。不登校状態にあることを口にしない患者も多くいます。身体症状に注意が行きすぎると解決を遅らせることがありますし、逆にすぐにメンタルの問題と考えてしまうのも危険です。日常的ですが、非常に深いテーマです。

「綜説」は「抗インフルエンザ薬の基礎と使い方」です。新型コロナの5類移行以降インフルエンザの流行が夏場になっても続いています。もう一度知識をアップデートする良い機会だと思います。2題目は「未診断疾患イニシアチブ (IRUD)」についてです。IRUDにより次々と新規遺伝性疾患の診断が可能となってきています。最先端の遺伝子診断を覗いておくのも有意義だと思います。

「社会小児科学」では、「小児科領域の医療訴訟」について法律家の立場から非常に具体的な解説をいただきました。

「オピニオン」は、総合アレルギーセンター構想についてのご提言です。

「トピックス」は出生前診断とパラインフルエンザ3型感染症の検討についてです。

連載企画「実例でわかる 臨床研究入門」第3回は「From the scratch のススメ」ということで、初心者の中からすべて自分でやるのが大切だと説かれています。

不登校はもちろん一義的には当事者本人の問題ですが、わが国の今後のことを考えると、国家的にも非常に深刻な問題です。要するに、将来に明るい希望が持てる社会の実現が何より大切なのではないのでしょうか。

(伊藤 保彦)

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄 (ABC 順)

小児科

第64巻 第8号 8月号

2023年8月1日発行 (毎月1回1日発行)

定価 3,190 円 (本体 2,900 円 + 税 10%)

年間購読料金

定価 48,950 円 (本体 44,500 円 + 税 10%)

[年間13冊 (増刊号、増大号を含む) の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03-3811-7165 [雑誌部直通]

Tel 03-3811-7184 [営業部直通]

Fax 03-3813-0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03-3637-0005

広告申込先 株式会社文京メディカル Tel 03-3817-8036

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, E-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。